

報告タイトル

マイクロファイナンス機関の買収とその貸出行動への影響：カンボジアでの事例
“Acquisition of Microfinance Institutions by Commercial
Investors: Examining Impacts on Lending Behavior”

氏名（所属）

相場 大樹（国際協力機構 緒方貞子平和開発研究所）
AIBA Daiju (JICA Ogata Sadako Research Institute for Peace and Development)

要旨（800 字程度）

マイクロファイナンス機関（Microfinance Institutions, 以後 MFI）は従来型の銀行貸出から排除されてしまう貧困層にも独特の貸出技術やドナーからのコストの低い資金調達を通じて貸出を行うことを目的とした機関であり、金融包摂を通じた貧困削減の中心的な役割を担っている。また、近年では、マイクロファイナンス業務のスケールの拡大の必要から、ドナーに頼らない商業化された MFI の優位性に注目が集まっている（Hamada, 2010）。しかし、MFI が収益性を維持し自立的な財政運営を行うことと、貧困削減という目的を同時に達成することは困難であることが多い。MFI のより貧しい人々へサービスが行き届いている度合いと補助金への依存度の相関は高い傾向にあると考えられている（Hermese et al., 2011）。一般に、MFI が持続的な財政の自立を目指す場合、顧客は最貧困層よりも少し上の層をターゲットにする必要がある。そのため、自立的な財政運営を追及することは、最貧困層ではない人々を対象として大きい金額の貸出しを行う傾向があるとして、本来の目的である貧困削減から利益志向への経営姿勢のシフトが問題として見られるようになってきている（ミッション・ドリフト問題）

カンボジアでは 2010 年代後半以降、MFI の競争の激化や国内や国外の商業銀行による買収が多くみられるようになった。カンボジアの MFI 部門はほかの国の MFI 部門と比較し、MFI の顧客基盤が商業銀行部門などの従来型の金融機関と比較しても広く、商業銀行部門の顧客基盤との重複もみられる。そのため、収益基盤の多角化やカンボジアの金融市場への進出を狙った外国銀行や国内銀行による MFI の買収が近年多くみられるようになった。

本研究では、近年のカンボジアでの MFI の買収が与える MFI の貸出行動への影響について、MFI の貧困地域への貸出額や女性への貸出数などの貸出のパネルデータ（197 地域 × 約 70MFI × 24 四半期）を用いて定量的な分析を行った。分析の結果として、カンボジアでの MFI の買収は、ことが分かった。また、買収された MFI は比較的未発展の地域で融資額を増やし始め、比較的発展している地域に融資を集中し始めていたこともわかった。さらに、買収された MFI は女性への貸付が比較的発展している地域に集中するようになったという結果が得られた。